

令和3年度  
事業報告書

社会福祉法人 札幌厚生会  
救護施設 札幌市あけぼの荘

総括 .....	-1-
<b>I. 利用者支援の充実</b> .....	-3-
1. 自己実現と個別支援体制の充実	
2. 人権を尊重した支援の推進	
3. 包括的基幹相談窓口の体制構築と循環型施設機能の推進、生活困窮者自立支援機能の推進	
4. 利用者主体の生活支援	
5. 生きがい活動の充実	
6. 作業活動の充実	
7. 地域活動の推進	
8. ホームレス緊急入所事業の推進	
9. 一時入所受入れの推進	
<b>II. 健康支援と感染予防</b> .....	-8-
1. 健康状態の把握と健康相談の充実	
2. 健康診断の実施	
3. 回診の実施	
4. 服薬の管理と誤薬防止	
5. 怪我（転倒）の防止と誤嚥予防	
6. 感染症の予防	
7. 病院受診・通院・入退院の対応	
8. 緊急時の対応	
別紙 月別通院状況	
<b>III. 食の向上と栄養管理</b> .....	-11-
1. 栄養の管理	
2. 特別食の対応	
3. 豊かな食事の提供と給食環境の改善	
4. 非常時の対応	
5. 食品衛生と調理従事者の衛生管理の徹底	
6. 給食単価と平均栄養所要量	
別紙 給食状況調	
<b>IV. 施設の安定的な経営と機能強化</b> .....	-15-
1. 安定的経営に向けた取り組み	
2. 運営体制の適正化	
3. 職員の専門性の向上	
4. 苦情解決に向けた取り組み	
5. 地域との連携	
6. 広報活動の充実と情報公開の取り組み	
<b>V. 施設の安全管理と環境整備</b> .....	-17-
1. 施設の防災管理	
2. 施設設備の修繕・保守・点検	
3. 施設内の清掃・美化	
<b>別表</b> .....	-18-
別表1 入所状況・ 別表2 職員配置状況	

# 令和3年度事業報告

## ■総括

### はじめに

依然として出口が見えないコロナ禍の中、令和3年度においても、感染予防をすべての場面に取り入れながら事業を実施した一年間であった。様々な情報収集を行い、世の中のまん延状況等をにらみながら、隔離、外出制限等に緩急をつけ、利用者様の人権と感染対策のバランスを模索してきた。職員の危機感の共有と緊張感を持ち続けられるよう、再び感染対策研修を行った。利用者様及び職員へのワクチン接種も速やかに行うことが出来、一部職員及びご家族の感染事例はあったものの、施設に持ち込むことなく、幸いにして今のところ施設内での感染者数はゼロで推移している。

今年度の大きな事業計画項目であった、札幌市との「居室環境の改善」に向けての協議は、一定の妥結と前進に至り、翌年度以降の新たなフェーズを迎える。

利用者支援においては、施設内における現在のサービスのあり方を「人権擁護委員会」を軸に検討を進めてきており、着実に変化しつつあるため、引き続き翌年度以降も検討を行う。コロナ禍の中、数年ぶりに再開した「居宅生活訓練事業」も順調に推移し、対象者の地域移行に向けた支援に取り組むことが出来た。

しかしながら、慢性的な定員割れの状況は未だ改善には至らず、厳しい財務状況が続いており、課題は次年度以降に持ち越した。

## ■重点目標

### 1. 利用者の確保

コロナ禍にあっては、それまでの行動歴等が不明な方を、相部屋である一般居室に入所させることは出来ない。そのため、一定期間の隔離や必要に応じてPCR検査を行うことを経て、受け入れしてきた。国の一時的事業である「一時見守り支援事業(近隣のアパートを借り、一時的な入所を行う)」を有効活用することで、より柔軟な受け入れを行うことができた。また、感染状況を考慮しながら病院等へのPR活動を行うことで、わずかながら反響をいただき、入所実績につなげることが出来た。

しかしながら一年間の在籍人員は昨年度を下回る結果となった。「法人基幹相談窓口」機能については、周知を行ってはいるものの、システム的な課題も明らかになり、次年度に修正していく。

### 2. 利用者支援のあり方見直し

現在の施設サービスが、昨今の利用者ニーズに合致しているものかどうかを検証してきた。利用者本人がもつエンパワメントを大切に、「支援しすぎない支援」

を意識しながら、「人権擁護委員会」を軸に日々の支援の見直しを行った。見直しするものと、継続するものを見極め、着実に議論を進めてきた。次年度も議論を継続していく。「居宅生活訓練事業」を再開し、2名の方が地域生活移行に向けて訓練を行った。

### **3. 職員体制の見直し**

限られた職員数において、より効率的で途切れ目の少ない体制をとることを目的とし、2階男性担当及び女性担当介護職員室を統合した。それにより、網羅的視点で支援していくための第一歩を踏み出すことが出来た。各種委員会活動は、それぞれの職員が主体的に関わることを目指し取り組んだ。特に「ひやりはっと委員会」を通じて、日常生活支援における職員の危機意識の向上につなげることが出来た。

### **4. 「話楽（わらく）」個別健康相談と外気浴の実施**

通常の医療的ケアに加え、健康に関する相談、傾聴を「話楽」と題し、相談者の心が少しでも楽になることに努めた。また、万が一の際の医療行為に関する意向調査を行った。

ワクチン接種については、嘱託医との連携のもと出来るだけ速やかに、かつ安全を配慮した上で施行した。

### **5. 安全で満足度の高い給食の提供**

健康で生きがいある毎日を送っていただくため、安全で満足度の高い食事の提供を行っているところであるが、今年度は満足度を下げることなく、食塩相当量の減量を行った。

### **6. 各種マニュアルの整備**

時々刻々と変化していく業務と職員体制に対応するために、段階的にマニュアルの整備を進めてきた。更に必要な箇所については引き続き見直ししていく。

### **7. 様々な災害に対応した計画の見直し**

昨年度に引き続き、コロナ禍においては、防災訓練も縮小化を余儀なくされ、新たな訓練はもとより従来どおりの訓練すら実施することが出来なかった。その代わりに感染症危機管理の観点から、コロナ感染を想定したゾーニングやPPE（個人防護具）の着脱等の研修を行った。

消防計画を旧来のものから現状に合わせたものに刷新し、所轄消防署へ届出を行った。

## I. 利用者支援の充実

生活支援において、個人を尊重し、自己決定と持てる能力の活用を基本とした、個別支援計画に基づき支援を実践した。

### 1. 自己実現と個別支援体制の充実

#### ① 個別支援計画実施体制の充実

ア. 希望・要望の聞き取り調査の実施

イ. ケース会議の開催

- ・ケース会議において、利用者様が希望する生活イメージが変更となっていないか、また支援目標に反映されているかを改めて見直し、複数の目標となっていたものを、利用者様自身が実現可能な数へと縮小することにより、より達成できる目標へと支援計画の見直しを行った。また、モニタリングも長期的な見直しではなく、短期的に経過を見直せるように期間の短縮も行った。

延べ開催回数 78回

### 2. 人権を尊重した支援の推進

#### ① 人権擁護委員会の開催

- ・施設生活ではあるが、地域住民の一人として地域で生活しているイメージに近づけるよう、施設内の規則の見直しを行い、今年度は起床・就寝時間外での集会室や「よかさろん」の時間を延長して利用できるようにした。未だ団体生活という縛りが残る部分に関しては、継続した見直しを行っていく。
- ・利用者様に対する支援の在りかたにも着目し、これまで生活に関する全ての事に対し支援してきたが、利用者様個々の能力を信じて任せることが、残存機能を活かす支援として必要ではないかと職員間での共通した認識となったことで、今後見直しを行っていく事とした。

委員会開催 10回

### 3. 包括的基幹相談窓口の体制構築と循環型施設機能の推進、生活困窮者自立支援機能の推進

#### ① 札幌市を対象とした「基幹相談窓口」としての機能

- ・当施設を窓口として市内各区からの依頼に対し、迅速な対応での受け入れが出来た。しかし法人内救護施設と連携した、受け入れ態勢の調整については課題が残るものとなった。今後は他の救護施設の状況がリアルタイムで確認できるツールを作成し、連携した受け入れを行っていく。

#### ② 施設と地域社会資源との連携強化

- ・新型コロナウイルス感染症により、定期的な訪問活動については実施に至らなかった。その中でも新規入所の面談の際には関係機関への訪問やリモートでの面談を行い、連携を図った。

#### ③ 生活困窮者自立支援事業の実施（地域公益的事業）

- ・認定就労訓練事業（中間的就労）としては保護自立支援課の依頼により、就労に向けての必要な訓練を行う事業であるが、今年度については対象者がいなかったことで実施に至らなかった。

### 4. 利用者主体の生活支援

#### ① 支援体制の改善

- ・福祉見聞録導入による情報管理体制の充実
- ・毎週水曜日をシャワー浴とし、通年週3回の入浴を可能とすることが定着してきた。

#### ② 意見反映

ア. 意見交換会（隔月実施）

イ. 全体集会

新型コロナウイルス感染症により、全館放送にて実施。廊下に放送内容の掲示を行った。

10月、1月、3月のみ通常通り、集会室にて実施した。

### ③自主的活動の促進

- ・各種体操への参加（毎日実施～ラジオ体操、リズム体操）
- ・カラオケ愛好会活動への支援（新型コロナウイルス感染症により中止）
- ・職員が同行する個別外出支援

買い物	食事	図書館	家族との交流	墓参り	合計
20回	0回	0回	0回	0回	20回

### ④ 家族等との交流支援

#### ア. 家族等との交流状況

新型コロナウイルス感染症により、感染対策をしたうえでご家族のみ実施。外出・外泊においては、感染予防の為禁止とさせていただいた。

#### ・面会の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
面会者数	0	1	0	2	1	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
面会者数	0	2	12	6	0	0

\*延べ面会者数 24名

#### ・外出の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外出者数	0	0	0	0	0	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外出者数	0	0	0	0	0	0

\*延べ外出者数 0名

#### ・外泊の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外泊者数	0	0	0	0	0	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外泊者数	0	0	0	0	0	0

\*延べ外泊者数 0名

#### イ. 機関紙「みちしば」の家族様への送付

- ・発行回数：年2回
- ・送付部数：38部／1回

## 5. 生きがい活動の充実

### ① クラブ活動の実施

新型コロナウイルス感染症により、ボランティアの受入れを中止とした。

クラブ名	実施回数	参加延人数	実施内容
書道クラブ	12回	149人	季節や行事に合わせた文字や好きな言葉を書き、日常的に掲示した。また、利用者様全体に呼びかけ七夕の短冊作りを行った。
自遊クラブ	12回	161人	お雛様、五月人形、七夕、クリスマス、正月等、季節の飾り付けの他、ぬり絵、歌と器楽の演奏、DVD放映等を行った。
手芸クラブ	23回	88人	1人1人の個性を生かし「出来る事」を主体として、刺し子、スクラッチアート、小物に飾り付け等の作品づくりを行った。

## ② レク活動の実施

### ア. グループレクの実施

実施日	内 容	参加者	実施日	内 容	参加者
5月18日	出前1班	6名	7月27日	100均2班	7名
6月10日	出前2班	5名	8月12日	100均3班	6名
6月15日	出前3班	6名	9月 9日	出前5班	5名
6月17日	出前4班	8名	9月14日	100均4班	6名
7月15日	100均1班	10名	10月19日	羊ヶ丘展望台	6名

イ. 買物レクの実施（コロナ禍にあっても、利用者ニーズが高かった買い物については、予防・消毒を徹底した上で実施した。

・実施日	1班 4月28日	2班 7月 6日	3班 7月20日
	4班 7月29日	5班 8月19日	6班 9月15日
・行 先	しまむら苗穂店 アベイル苗穂店		
・参加者	1班 6名	2班 5名	3班 6名
	4班 6名	5班 4名	6班 7名
	合計 34名		

### ウ. 宿泊旅行の実施

新型コロナウイルス感染症により実施ができなかったため、代替案として市内ドライブレクから施設内での食事を実施した。

班編成	日 程	行先	内 容	参加人数
第1班	9月	小 樽	新型コロナウイルス感染症により中止。	0名
第2班	10月	札 幌	新型コロナウイルス感染症により中止。	0名
食事会	11月	札 幌	新型コロナウイルス感染症により中止。	0名

### エ. その他施設行事

実施日	行事名	内 容	備考
4月1日	新担当顔合わせ	新規居室メンバーと担当介護職員との顔合わせを行った。	
4月中旬	合同カラオケ交流会	新型コロナウイルス感染症により中止。	
5月13日	第59回開設記念	施設内にて利用者様のみで実施した。	
8月11日	夏祭り	施設内にて利用者様のみで実施した。	
8月中旬	物故者盂蘭盆会法要	新型コロナウイルス感染症により中止。	
9月1日	スポーツ交流会	新型コロナウイルス感染症により中止。	
9月16日	敬老会	お祝い品を贈呈し、長寿のお祝いを利用者様と共にを行った。	
12月16日	もちつき	「よかさろん」にて、もちつきを行った。	
12月23日	クリスマス会	クリスマス会食を行った。	

12月30日	年越し会食	年越しの会食を行った。	
1月19日	勉強会	食事の大切さをDVDで上映した。	
2月3日	節分の豆まき	年男、年女の方に施設内を回って頂き、豆まきを行った。	対象者 6名

オ. 外出やレクが中止される中、少しでも施設内が明るくなるよう、定時にそれぞれ好きな音楽やDVDの希望を聞きながら流す試みを行った。

平日：14：00～1時間程度 音楽放送

休日：13：45～2時間程度 DVD映画放送（いずれもリクエストによる）

## 6. 作業活動の充実

新型コロナウイルス感染症の発生から、作業依頼が皆無に近い状況となってしまった。

作業依頼が入った時には、人数を分散することで密を避け、換気などの感染対策をしながら作業を行った。

### ① 作業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施延べ日数 (日)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
参加延べ人員 (人)	0	0	0	47	0	0	0	0	0	0	0	0	47
1日平均参加 人員(人)	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	24
箸作業実績 (本)	0	0	0	4,944	0	0	0	0	0	0	0	0	4,944
箸作業収益金 (円)	0	0	0	3,955	0	0	0	0	0	0	0	0	3,955
その他作業 実績(部)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他作業 収益金(円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収益金総額 (円)	0	0	0	3,955	0	0	0	0	0	0	0	0	3,955

### ② 作業内容

- ・お弁当用箸セット製作作業

### ③ 作業工賃の支給

- ・偶数月に当該月の前2ヶ月分の作業参加回数を集計し、その出席回数と当該月の収益金を基礎とした計算により、作業賃金を個々に支給した。
- ・令和3年度作業収益金総額 3,955円

## 7. 地域活動の推進

いずれも新型コロナウイルス感染症予防により中止した。

①地域清掃の実施

②地域交流の実施

③施設訪問の受入れ



## 8. ホームレス緊急入所事業の推進

国の緊急的施策（一時見守り支援事業）により、施設近隣のアパートを3室借り上げ、経路不明者の隔離対応場所として受け入れを行った。

### ア. 月別入所者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	0	0	0	0	1	0	3	1	1	1	2	2	11

\*平均入所日数 27.5日 最短 1日 最長 51日

### イ. 年齢別入所者数

(内訳)	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
	0名	0名	4名	6名	1名	0名
	0%	0%	36.4%	54.5%	9.1%	0%

\*平均年齢 52歳 最年少45歳 最高齢64歳

### ウ. 月別退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅保護	3	0	0	0	0	1	0	1	1	2	1	2	11
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 9. 一時入所受入れの推進

ア. 一時入所利用者数（一般入所前の体験的入所は除く）7名

イ. 入所日数 延入所日数 73日 平均入所日数 10.4日

ウ. 退所先 居宅 4名 その他 0名 正式入所 3名

## Ⅱ. 健康支援と感染予防

利用者様一人ひとりの安心と健康の保持、残存機能の維持を図りながら、嘱託医の指示の下、以下のことを行った。新型コロナの影響下の中感染症対策の徹底に努めた。

### 1. 健康状態の把握と健康相談の充実

日常の小さな変化や悩みのサインを見逃さないよう観察を密に行い、利用者様の主体性や意思を尊重した（健康相談「話楽」）支援に努めた。

#### ① 「話楽」の実施

・誕生月の方・新規入所の方へ個別に悩みや不安に思うことの聞き取りを行った。 延べ人数 17名

#### ② 延命意思確認の実施

・誕生月に年1回、新規入所の方へ延命希望の有無確認を行った。 実施人数 17名  
また、生活支援記録システムを活用し、医務的記録を職員間で情報共有出来るよう努めた。

### 2. 健康診断の実施

#### ① 定期検診

検診名	実施日	実施機関名	受診者	要精検者
胃 癌 検 診	4月 8日	北海道対がん協会	19名	1名
大 腸 癌 検 診	4月 8日	北海道対がん協会	64名	1名
胸 部 検 診	4月 8日	北海道対がん協会	60名	1名
子 宮 癌 検 診	3月18日	北海道対がん協会	9名	0名
乳 癌 検 診	3月18日	北海道対がん協会	6名	1名

※ 要精検者については、嘱託医の指示により再検査を実施した。

#### ② 施設内健康チェック

ア. 体重・血圧測定の実施

・毎月 男性・女性別に1回測定実施

イ. 検血・検尿の実施（対象者のみ）

・3班に分け年2回実施

#### ③ 入所時健診

必要に応じ適宜実施した。

#### ④ 個別検査

嘱託医、主治医の指示を受け、胸部レントゲン・CT、頭部CT、心電図、胸部・頸部エコー、血液、尿検査を実施した。

### 3. 回診の実施

回診や通院を受診した。月別患者数は別紙のとおり。

### 4. 服薬の管理と誤薬防止

自己管理が難しい方（現在53名）については医務管理とし、食事後や就寝時に介護職員と連携し服薬確認を行った。また自己管理が出来る方についても、定期的に残薬のチェックを行い服薬の安全に努めた。誤薬の発生を出来るだけ最小限にとどめるべくヒヤリハット委員会を通じ検証を行った。

### 5. 怪我（転倒）の防止と誤嚥予防

ア. ラジオ体操、リズム体操、DVDによる機能体操の実施（身体機能・嚥下機能・認知機能）

イ. 歯科往診時に必要な方へ義歯装着方法や歯磨き方法等について指導した。又、義歯の不都合など介護職員と連絡を密にとりながら歯科治療につなげた。

ウ. 昼食前に対象者向けに嚙下体操を行った。

嚙下体操月別実施回数及び参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実施回数	8回	9回	7回	8回	7回	4回
参加者数(延人数)	106名	134名	95名	103名	99名	56名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施回数	9回	5回	9回	4回	6回	5回
参加者数(延人数)	89名	55名	66名	57名	95名	75名

合計：81回 1,030名

エ. 単身で外出できない方へ屋上を活用し、外気に触れる機会をつくる目的で「SUN 歩会」を行った。  
実施回数5回 参加人数延べ19名

## 6. 感染症の予防

ア. インフルエンザ予防接種の実施

- ・利用者様及び職員を対象に実施した。

イ. 肺炎球菌ワクチンの実施

- ・対象の一部利用者様に実施した。

ウ. 新型コロナ予防接種の実施

- ・ワクチン接種券が届いた順に利用者様に実施した。

エ. 手洗い・うがいの徹底

- ・日常の手洗い・うがいの徹底のほか、通院の帰荘後のうがい手洗いを徹底するなど、感染症の予防に努めた。
- ・食堂、玄関、各階洗面所に手指消毒剤を設置し、消毒の徹底をした。

オ. 除菌の徹底

- ・施設内の除菌（通年1日2回）及び、換気（午前、午後2回）を全職員で実施した。

カ. コロナウイルス対策の実施

- ・体調管理（体温測定・風邪症状の有無）
- ・隔離体制（緊急・一時入所者も含む）を採り、PPE（個人防護具）、アルコール消毒液等必要物品を調達した。
- ・PPE（個人防護具）着脱実践とゾーニングについて全職員を対象に実施した。
- ・全職員のマスク着用、利用者様の外出制限を適宜実施した。
- ・健康診断や通院時のマスク着用（職員・利用者様）
- ・食堂テーブル中央にアクリル板を設置し、1日1回消毒を実施した。
- ・発熱者が出た時の対策マニュアルを作成した。
- ・回診及び往診に来る医療者（他の入館者も同様）の出入口玄関は1か所とし入館前に検温・手指消毒の協力依頼した。
- ・緊急事態宣言時の回診・往診の自粛にあたり医療機関へ連絡調整等した。

## 7. 病院受診・通院・入退院の対応

- ・単独通院出来ない方や、新型コロナ対策で公共交通機関を使用できない方の通院送迎を行った。  
（相談員と調整）
- ・通院者の受診に対し新型コロナの対策として通院日の調整、リモート受診を行った。

## 8. 緊急時の対応

のどづめ、転倒事故による怪我、意識障害などの事態に対し職員全員が初期対応を行えるよう努めた。

- ・「事故発生時の対応」マニュアルを基に新規職員へ説明を行った。

## 月別通院状況

延人員(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	施設外	5	2	7	8	7	15	6	11	10	5	6	4	86
	施設内	24	20	6	10	6	14	23	20	16	25	24	21	209
精神科	施設外	3	3	2	2	3	1	1	2	1	0	1	7	26
	施設内	18	0	0	0	0	9	0	20	16	0	0	0	63
外科	施設外	5	1	1	1	0	1	0	2	2	1	0	6	20
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	施設外	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	施設内	10	0	0	8	11	0	0	10	13	12	0	14	78
歯科	施設外	4	2	5	13	11	6	8	2	2	2	2	5	62
	施設内	22	9	10	32	16	13	8	11	15	15	20	15	186
婦人科	施設外	1	4	3	2	2	1	3	1	2	1	1	1	22
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	施設外	4	1	1	3	3	3	1	4	6	2	1	1	30
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	施設外	0	0	0	0	3	9	10	3	4	1	2	3	35
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	施設外	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	2	0	8
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	施設外	2	0	3	0	2	0	2	0	2	0	0	2	13
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	施設外	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診者数	施設外	25	15	23	31	32	37	32	26	30	12	15	29	307
	施設内	74	29	16	50	33	36	31	61	60	52	44	50	536
	合計	99	44	39	81	65	73	63	87	90	64	59	79	843

### Ⅲ. 食の向上と栄養管理

健康で生きがいのある生活を送っていただくため、利用者様個々に合った安全で満足度の高い食事の提供に努めた。満足度を下げることなく、より適切な給与栄養目標量を目指し、一部献立や提供方法の見直しを行った。

#### 1. 栄養の管理

身体状況・生活状況を把握し、個々の健康・栄養状況に応じた栄養管理の徹底を図った。また、生活習慣病の予防と重度化防止など、健康の維持・向上に努めた。

- ① 献立表の作成
- ② 個別栄養管理
- ③ 食塩相当量の見直し

#### 2. 特別食の対応

利用者様個々の疾病等を考慮し、特別食の対応を行った。

・マンナン食 ・エネルギー制限食 ・減塩食 ・アレルギー等による代替食

#### 3. 豊かな食事の提供と給食環境の改善

毎日の食事が最大の楽しみとなるよう、季節を感じる食材や料理を盛り込み、変化に富む献立に努めた。より出来立ての料理を食べていただけるよう適温での提供と、食欲をそそるよう視覚や嗅覚など五感が満たされる豊かな食生活の提供に努めた。

- ① 食事環境の改善
- ② 行事食、選択食、イベント食等の充実

##### ア. 選択食

回数	実施日	選択食の内容
1	4月14日	親子丼：えびかつバーガー、チョコレートケーキ：どらやき
2	7月14日	冷やしラーメン：ロコモコ丼、ピンクグレープフルーツシャーベット：シュークリーム
3	11月17日	油そば：キーマカレー、焼きプリンタルト：白玉のお汁粉
4	2月9日	コッペパンサンド（たまご、焼きそば）：クリームリゾット、マンゴープリン：バニラアイスのキャラメルソースかけ

##### イ. バイキング食

・コロナ禍により例年のスタイルではなく、料理は簡易食器に小分けに盛り付けし、予めお膳にセットした状態で配膳した。おかわりについては、利用者様は着席したままで、職員がオーダー分の料理を座席まで運び、感染対策に配慮した形で実施した。

・実施日 3月9日

・献立 白飯、帆立カレー、ベーコンとアスパラのスパゲティー、クロワッサン、マーブル食パン、フライドチキン、牛肉じゃが、えびのマヨネーズ炒め、白身魚の甘酢あん、茄子とトマトのミートグラタン、ハムのマリネ、いちごエクレア、どらやき、ティラミス、お茶

##### ウ. お弁当献立

・実施日 ①10月13日

##### エ. 誕生会

・誕生月の利用者様から料理の希望を聞き、一番希望の多かった料理を毎月の誕生会に提供した。

## オ. イベント食

### ◎開設記念日

- ・開設記念日に寿司、焼き鳥、飲み物などの献立で昼食を楽しんでもらった。

### ◎選べるトッピング

- ・用意した8種類のおかずの中から好きなものを1人3品まで選んでいただいた。希望された方には、当日に限り1回だけ御飯のおかわりをしていただいた。
- ・実施日 6月16日
- ・献立 御飯、茄子のソテーと盛り合わせ、選べるトッピング（たらこ、すじこ、イカの塩辛、味付けのり、きざみ昆布の佃煮、梅干し、鶏そぼろ、ベーコンおかわり）、オレンジ

### ◎夏祭り

- ・夏祭りには、焼きそば、お好み焼き、フランクフルト、カキ氷など出店風の献立で昼食を楽しんでもらった。

### ◎あけぼのオータムフェスト

- ・『北海道・札幌の食』をテーマとした秋の味覚の祭典オータムフェストにちなみ、普段なかなか口にすることのない道内各地の旬の食材や、ご当地グルメを味わってもらった。料理や、食材の紹介はもちろん、その土地の概要、名産や特産、出身有名人などについても写真付きで紹介した。
- ・実施日 ①9月14日 ②9月15日
- ・献立 ①いかめし（森町）、厚焼きたまご、胡瓜の酢の物、あげいも（中山峠）  
②スープカレー（札幌）、野菜サラダ、羊蹄メロン（倶知安）

## カ. クリスマス会食、年越し会食、おせち料理

### ◎クリスマス会食

- ・クリスマス会食では、ケチャップライス、ローストチキン、グラタンやテリーヌ、海老フライ、サーモンマリネなどクリスマスらしい内容でのオードブルやケーキを楽しんでもらった。

### ◎年越し会食

- ・12月30日の年越し会食では、お弁当箱を用いて、えびと银杏のおこわ、ザンギ、海老、旨煮、数の子、金平牛蒡、昆布巻き、栗きんとん、練り切りなど正月らしい料理を楽しんでもらった。
- ・大晦日の夕食では、親子丼と年越しそばを楽しんでもらった。

### ◎おせち料理

- ・元旦には朝食に伊達巻や黒豆などおせち五点盛り、昼食にはお赤飯や茶わん蒸し、夕食に刺身盛り合わせを楽しんでもらった。

## キ. 季節食

- ・季節に合わせ、日本の文化に触れる行事食を提供した。

餅つき（雑煮）

冬至（冬至南瓜）

七草（七草粥）

節分（いなりとりのり巻き）

ひな祭り（ちらし寿司、甘酒）

## ク. 祝日食

- ・祝日には、季節や家庭の温かみを感じてもらうため行事食を提供した。

昭和の日（生ちらし）	憲法記念日（赤飯、刺身）	みどりの日（筍ごはん）
子供の日（鮭ちらし寿司）	海の日（いなり・のり巻き）	スポーツの日（鶏めし）
山の日（ちらし寿司）	敬老の日（赤飯、刺身）	秋分の日（三色おはぎ）
文化の日（炊き込み御飯）	勤労感謝の日（いくら親子丼）	成人の日（ちらし寿司）
建国記念の日（ひじき御飯）	天皇誕生日（鉄火丼）	春分の日（三色おはぎ）

### ③ 利用者様の意見反映

- ・給食会議において、居室ごとに取りまとめた食事に対する意見、要望を利用者様の代表から聞き、給食に反映させた。

- ・嗜好調査の実施  
調査時期 令和4年1月  
調査対象 利用者様 74名

### ④ 嗜好品の支給形態

- ・個々の身体状況、喫食能力によりおやつの内容を2本化し、嚥下困難な方にも安心して食べていただけるよう努めた。(原則毎週木曜日支給)

### ⑤ 利用者様個々の状態に応じた自助食器、自助具の提供

- ・個々の状態に合わせ、自助食器・自助具を提供した。
- ・自助食器・自助具を使用することで、安定した栄養摂取量の確保と自力摂取をサポートした。

## 4. 非常時の対応

### ① 非常食の備蓄

- ・災害時に備え、3日分の非常食を備蓄した。
- ・備蓄品 御飯、スープ缶、フルーツ缶、飲料水、補助食など90名×3日  
※飲料水においては実際の災害に備え、1日1人あたり2リットル程度の備蓄量を目指し段階的に増加した。

### ② マニュアルの活用

- ・万が一の災害発生時に、対応マニュアルに沿い、適切かつ迅速な対応を行えるよう内容を更新した。

## 5. 食品衛生と調理従事者の衛生管理の徹底

- ・調理室内の除菌（1日2回 8：45、15：00に実施）
- ・調理室内の温度測定（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・冷蔵、冷凍庫の温度測定（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・水質検査の実施（1日2回 5：45、18：00に実施）
- ・原材料及び調理済み食品の検査用保存食の保存（2週間分）
- ・加熱調理済み食品の中心温度測定（加熱調理済み食品全てを測定）
- ・栄養士及び調理従事者の検便検査（月1回実施）
- ・調理従事者の個人衛生管理表による健康・衛生チェック（1日1回出勤時に実施）

## 6. 給食単価と平均栄養所要量

### ① 給食単価

下記単価により給食を提供した。

給食費	1人1日	941円
-----	------	------

### ② 平均栄養所要量

別紙「給食状況調」による基準により給食を提供した。



## 給食状況調

	kcal	g	g	mg	mg	ビタミン				1人1日当たり 平均金額	食数
	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄	A( $\mu$ g)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)		
3年4月	1,809	67.5	46.0	673	10.1	800	1.19	1.46	138	915	2,342
3年5月	1,810	70.8	46.3	721	10.4	784	1.25	1.54	134	906	2,428
3年6月	1,800	70.4	45.8	717	9.9	790	1.18	1.48	136	951	2,211
3年7月	1,807	70.7	45.8	724	10.0	807	1.25	1.53	134	952	2,218
3年8月	1,802	71.0	46.4	700	10.0	793	1.27	1.52	136	907	2,182
3年9月	1,809	69.2	44.0	716	10.2	812	1.23	1.51	136	945	2,096
3年10月	1,805	69.9	46.3	715	10.0	858	1.24	1.53	139	926	2,190
3年11月	1,807	71.0	45.8	714	10.0	796	1.24	1.52	134	933	2,143
3年12月	1,826	71.9	46.1	723	10.1	723	1.19	1.50	134	1,003	2,305
4年1月	1,807	70.9	44.6	712	10.1	712	1.20	1.48	128	963	2,327
4年2月	1,803	70.8	45.4	685	10.3	768	1.20	1.47	127	945	2,177
4年3月	1,825	71.4	44.9	698	10.1	814	1.20	1.50	132	950	2,458
合計	21,710	845.5	547.4	8,498	121.2	9,457	14.6	18.0	1,608	11,296	27,077
月平均 1人1日当たり	1,809	70.46	45.62	708	10.1	788	1.22	1.50	134	941	2,256



## IV. 施設の安定的な経営と機能強化

### 1. 安定的経営に向けた取り組み

安定的な施設経営のために、最大の収入財源である利用人員の充足を目指した。しかしながら今年度においても十分な人員確保には至らず、状況を改善することが出来なかった。

#### ① 定員の充足

- ・継続的な利用者様の確保（年間平均在籍人員実績76.8名、月別人員は別表1を参照）
- ・居室環境改善に係る協議を札幌市と継続的に行った。
- ・プライベート空間を確保するため一部居室の改修工事を行った。
- ・一時見守り支援事業を活用し施設近隣のアパートにて15名の受け入れを行った。

#### ② 救護施設の周知活動

- ・札幌市内病院相談窓口等へのPR活動を行った。
- ・札幌市内保護課ケースワーカー向けの施設見学会は、感染防止の観点から中止した。

### 2. 運営体制の適正化

#### ① マニュアル等の整備

- ・現存するマニュアルの把握を行い、少しずつではあるが更新を行うことが出来た。

#### ② 記録業務の効率化・情報共有

- ・生活支援記録システムを活用し、医務的な日誌やヒヤリハット委員会の会議録作成など更なる活用の拡張を図った。

#### ③ 定例会議・各種委員会活動の実施

- ・職員会議・給食会議・支援会議の開催：月1回
- ・苦情解決委員会：苦情等意見書3件
- ・ヒヤリハット委員会の開催：月1回

ヒヤリハット報告

《年間分類別事象数》

投薬	転倒・転落	食事・誤嚥	無断外出	設備	防災	外出先	外部	忘れ	勘違い	その他	合計
60	49	8	4							36	157

- ・救護施設サービス自己評価委員会の開催：委員会にて評価結果をレーダーチャートにまとめ、総合評価を職員会議にて報告した。
- ・人権擁護委員会の開催：感染防止の観点から縮小し、年10回の開催とした。
- ・感染症対策委員会の開催：新型コロナ感染症拡大防止のため感染状況に応じた対応を随時検討し、発信を行った。

### 3. 職員の専門性の向上

#### ① 職員体制と専門性の強化

- ・加算制度の利用：救護施設職員配置基準に基づく適正な職員配置に加え、加算制度を利用した職員配置を行った。

（指導員1名、介護職員1名、看護師1名）

- ・外部団体研修会への参加：コロナ感染防止の観点から中止となった研修会も多いが、一部実施された対面式、及びZOOM、動画配信による各種研修会へ参加した。

- ・施設内研修の実施  
職員が講師となり、PPE（個人用防護具）の正しい使用方法について研修会を実施した。

#### 4. 苦情解決に向けた取り組み

- ・苦情受付件数 3件～利用者間の関係性及び介護職員に対する不満について

#### 5. 地域との連携

- ・施設行事への参加呼びかけ（感染防止の観点から施設行事への外部の方への呼びかけを中止した）
- ・会議室の開放（感染防止の観点から開放を中止した）
- ・福祉除雪事業への参加（当施設出動実績：3回）

#### 6. 広報活動の充実と情報公開の取り組み

##### ① 広報活動の充実

- ・ホームページの定期的な更新
- ・広報誌「みらしば」の発行
- ・発行部数 110部
- ・配布先 ご家族・関係機関
- ・発行内容

号 数	発行日	発 行 内 容
158号	4月15日	クリスマス会、感染予防対策、看護師のお仕事等
159号	10月15日	開設記念 夏祭り、オータムフェスト、コロナワクチン接種等

##### ② 情報公開

- ・ホームページにおいて施設概要、事業報告書及び決算収支状況を開示した。
- ・定期的に更新し日常生活等をお伝えした。

## V. 施設の安全管理と環境整備

### 1. 施設の防災管理

日頃より施設周辺の可燃物の整理整頓や、自治救出体制の見直しを行う等防火活動に努めた。既存の消防計画を、現状に合わせ全面的に見直しを行い、所管消防署へ届出した。

- ・消防法に基づく総合訓練の実施

実施月日	想定	訓練内容	参加者
4月27日	夜間	部分訓練（消火訓練・避難訓練）	3名
10月27日	夜間	検証部分訓練（消火訓練・避難訓練）	3名

- ・避難訓練に参加した職員を対象として、消防設備の使用法やスプリンクラー設備について研修を実施した。
- ・緊急時の職員連絡体制をより定着させるため、「らくらく連絡網」を活用した業務連絡を行った。
- ・既存の消防計画が、活動していない委員会が掲載されていたり、備蓄品、職員名や職種など変更前の表現箇所が多く存在したりしていたことから、全面的な見直しを行った。現状の体制に合わせ、且つ職員が日常的に意識すべき事柄を分かり易くまとめたものとした。

### 2. 施設設備の修繕・保守・点検

各種機器の維持管理及び、経年による建物の劣化による修繕を実施した。今年度においては、一部2階居室でプライバシーを確保するための改修工事を実施した。また経年劣化による厨房内の大型クーラーの交換や、自動ドア装置の交換修繕を行った。設備の定例保守は以下のとおり行った。

- ・消防用設備の点検（年2回～専門業者／自主点検：毎月）
- ・自家用電気工作物（キュービクル）の点検（毎月～専門業者）
- ・エレベータの保守点検（毎月～専門業者）
- ・温水ボイラーの保守点検（4月・11月～専門業者）
- ・受水槽・貯湯槽の清掃保守及び水質検査（2月～専門業者）
- ・浴槽水の分析検査（レジオネラ属菌検査）（9月～臨床検査業者）
- ・機械警備の保守点検（毎月～専門業者）
- ・浴槽配管洗浄（8月～専門業者）

### 3. 施設内の清掃・美化

居住環境の清潔保持と施設内感染の予防に努めた。

- ・館内床美装（食堂：年2回その他廊下等：年2回）
- ・布団丸洗い及び乾燥殺菌（丸洗い4月、乾燥殺菌10月）
- ・シーツ・ホーフの交換（月2回）
- ・居室内カーペット部分（汚損箇所）貼り替え（年1回）
- ・月例清掃（毎月～職員と利用者の協働清掃）
- ・館内除菌（インフルエンザ、ノロウイルス対策）の実施（毎日2回～職員が実施）

<別表 1>

入所状況

(令和4年3月31日現在)

入退所状況調

(人)

月	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	平均
月初措置人員数	80 (2)	78 0	77 0	74 0	73 0	74 (1)	72 0	74 (2)	75 (2)	78 (2)	80 (2)	81 (2)	76.3
自由契約者数	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
合計	81	79	78	75	74	74	72	74	75	78	80	82	76.8

※( )はホームレス緊急入所による措置人員数を再掲

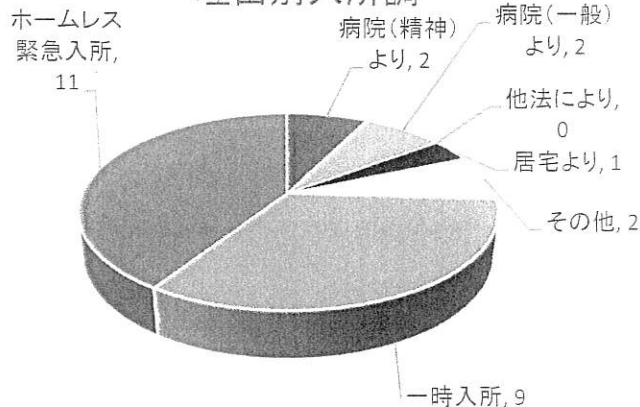
(人)

月	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計
入所	病院(精神)より								1			1	2
	病院(一般)より	1								1			2
	他法により												
	居宅より									1			1
	その他									1			1
	一時入所(一般入所前の体験の入所は除く)	1	1		1				1	1	2	1	1
	ホームレス緊急入所						1		3	1	1	1	2
	合計	2	1		1	1		3	3	5	3	4	4

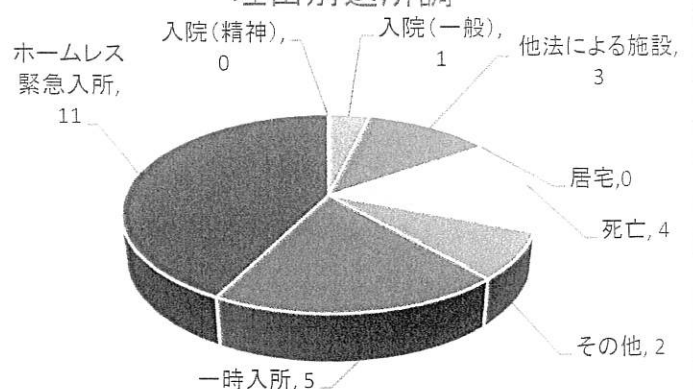
(人)

月	R3.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R4.1	2	3	合計
退所	入院(精神)												
	入院(一般)				1								1
	他法による施設	1						1	1				3
	居宅			1									1
	死亡			1	1	1							4
	その他		1	1									2
	一時入所(一般入所前の体験の入所は除く)	1	1						1	1			1
	ホームレス緊急入所	3						1		1	1	2	1
	合計	5	2	3	2	1	2	1	2	2	2	1	4

理由別入所調



理由別退所調



年齢別調

(人)

年齢	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	合計
男	1	1	2	5	6	7	6	6	6	40
女				4	7	7	7	7	10	42
計	1	1	2	9	13	14	13	13	16	82

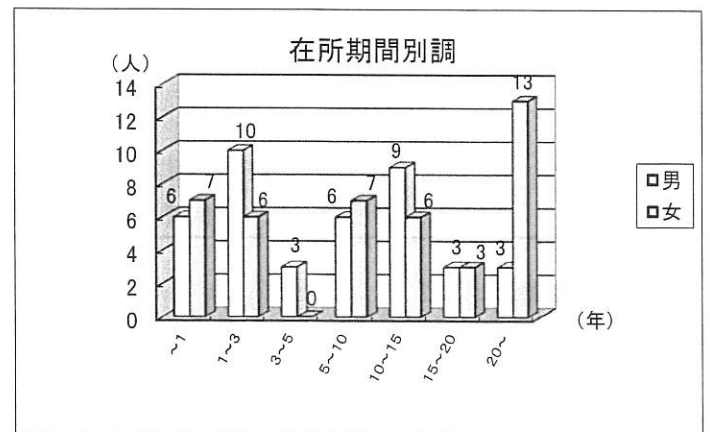
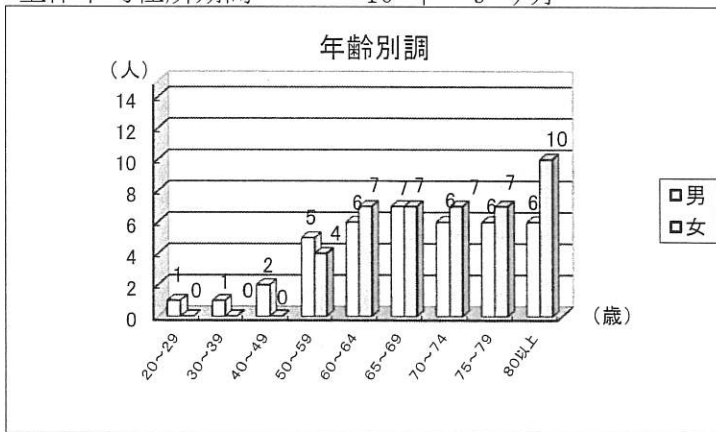
最少年齢 男子 28歳 最高年齢 男子 82歳 平均年齢 男子 66.0歳  
 女子 50歳 女子 90歳 女子 71.9歳  
 全体平均年齢 69.0歳

在所期間別調

(人)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計
男	6	10	3	6	9	3	3	40
女	7	6		7	6	3	13	42
計	13	16	3	13	15	6	16	82

最短期間 男子 0年 0ヶ月 最長期間 男子 30年 11ヶ月  
 女子 0年 1ヶ月 女子 34年 8ヶ月  
 平均在所期間 男子 8年 2ヶ月  
 女子 13年 3ヶ月  
 全体平均在所期間 10年 9ヶ月

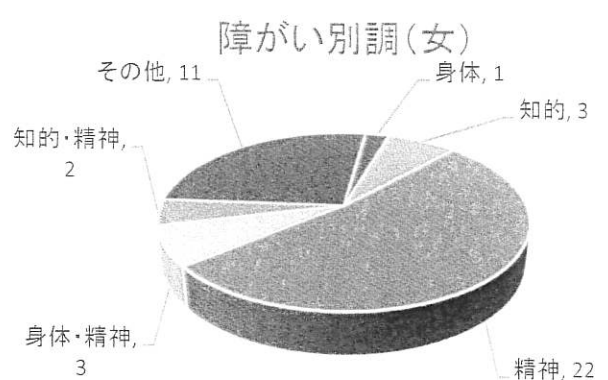
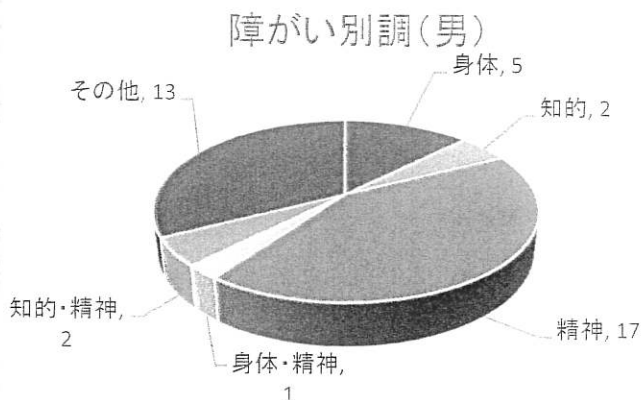


障がい別調

※判断は手帳の所持による

(人)

	身体	知的	精神	身体・知的	身体・精神	知的・精神	身体・知的・精神	その他	合計
男	5	2	17	0	1	2	0	13	40
女	1	3	22	0	3	2	0	11	42
計	6	5	39	0	4	4	0	24	82



障害者手帳保持調

(人)

身体障害者手帳	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	合 計
男	2		2	2			6
女		1		1	1	1	4
計	2	1	2	3	1	1	10

精神障害者保健福祉手帳	1 級	2 級	3 級	合 計
男		18	2	19
女	2	23	2	27
計	2	41	4	47

療 育 手 帳	A	B	B-	合 計
男		2	1	3
女	3	2		6
計	3	4	1	9

ADL状況調

(人)

区 分	歩 行			食 事			排 泄			入 浴			着 衣			
	自 力 歩 行	補 助 具 使 用	車 椅 子 使 用 不 能	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	自 分 で 可 能	一 部 介 助	全 介 助	
実数	61	12	9	5	44	37	1	56	18	8	44	24	14	65	12	5

受給年金調

(人)

	国民年金				厚生年金			障 基 老 厚	そ の 他	合 計
	障 害 基 礎	老 齢 基 礎	障 害 (旧法)	老 齢 (旧法)	障 害	老 齢	遺 族			
男	11	1				13		1	5	31
女	11	4	1		1	6	2		8	33
計	22	5	1		1	19	2	1	13	64

実施機関別入所人員調

(人)

各 市 別 人 員				各 振 興 局 別 人 員			
実 施 機 関 名	男	女	計	実 施 機 関 名	男	女	計
札 幌 市	22	30	52	空 知 総 合 振 興 局	3	1	4
名 寄 市		1	1	上 川 総 合 振 興 局			
北 見 市	3		3	根 室 振 興 局	1		1
江 別 市				オ ホ ー ツ ク 総 合 振 興 局	2		2
三 笠 市	4	4	8	十 勝 総 合 振 興 局	1	1	2
根 室 市		1	1	胆 振 総 合 振 興 局			
北 広 島 市		1	1	後 志 総 合 振 興 局			
岩 見 沢 市	1		1	釧 路 総 合 振 興 局		1	1
砂 川 市	1		1				
登 別 市		1	1	私 的 契 約	1		1
苫 小 牧 市		1	1				
帯 広 市	1		1				
小 計	32	39	71	小 計	8	3	11
				合 計	40	42	82

<別表2>

職員配置状況

令和3年4月1日現在

職 種	施 設 長	事 務 員	主 任 指 導 員	指 導 員	介 護 職 員	介 助 員	看 護 師	栄 養 士	調 理 員 等	(ほ 巡 視 員 等 )か	医 師	合 計
定 数	1	2	1		15	1	1	1	4(1)		(1)	26(2)
現 在 員	正規職員	1	2	1	1	14	1	2	1	4		27
	契約職員					3				4	6	13
	嘱託										2	2